

No.167

# 公民館だより

令和1年11月

宮津市字由良  
由良の里センター内  
由良地区公民館

## 障害者差別解消法について

由良地区公民館長 磯田 充 亮

九月九日、京都府丹後教育局（宮津総合庁舎）において丹後人権教育行政担当者等研究協議会が開催されました。

世界人権問題研究センター登録研究員 松波めぐみ様による「誰も取り残さない社会へー障害者差別解消法をいかにしてー」と題してご講演がありました。

主な内容は、

一、「障害者差別解消法」理解するためにー背景にある基本的な考え方

他に三項目ありましたが、今回は前記について記します。

来年、東京オリンピック、パラリンピックで多くの障害

者が参加され、その活躍が期待されています。又、今回の参議院選挙で障害のある議員が誕生し、このように社会参加が進んでいます。

現在、日本には昨年の国勢調査で障害者手帳を持つている方が九百六十万人以上おり16.4人に一人います。

実感として、多くの障害者がいるとは思われませんが、病院や施設に入っている人や、外出しない人、外見ではわからない、理由も言われない人達等が多くおられ、今までは保護の対象でしたが、権利の主体と変化し、見えな

知的な遅れ等身体の欠損が問題で、障害を克服するのは本人（家族）の責任だという考えが一部にあります。段差がある、情報保障がない、偏見など、社会のバリア（障壁）こそが、障害者の参加を拒んでいる。

社会環境が変われば当たり前に参加ができる。社会のバリアをなくするのは社会全体の責任であり「変わるべきは社会の方だ」とする考えが普及しています。

ともすれば「障害者とはかわいそうな人、何かをやってあげなくては」という発想になりがちですが、手助けも必要ですが、そうではなく、同じ市民なのに「社会のバリアがあるために」機会を制限された人と考え、障害者を助けるのではなく、どんな「社会のバリア」があるのか、どうやって取り除くかという発想が大切です。

この法律は、2016年施行で 障害者を「身体障害・

知的障害・精神障害（発達障害を含む。）その他の心身の機能の障害（以下「障害」と総称する。）がある者であつて、障害及び社会的障壁により継続的に日常生活または社会生活に相当な制限を受ける状態にあるものをいう」を定義しています。

つまりこの法律は障害者手帳を持つ人だけでなく、障害者手帳をもっていないものの、なんらかの機能障害がある人も対象に含んでいます。又、障害のある人にとって、日常生活や社会生活を営む上で障壁となるような、社会における事物、制度、慣行、觀念、その他一切のものを指します。

「社会的障壁がなければ、心身の機能の障害がある人も日常生活や社会生活を制限なく送ることができる」という考え方に基づいています。

参考文献 配布された資料

（次回に続く）

# 行事報告

## ◎グラウンドゴルフ大会 (個人戦)

6月9日(日)

午前9時～午前10時

：はまの子グラウンド

参加者数

男子20名、女子9名

天候は曇り、グラウンドには少し水たまりがあり、柔らかい状態でしたが実施することができました。

分館長と体育部の皆さんに準備や受付をしていただきました。8時30分から受付を開始、大正琴の用事で女性が少なくなりましたが、役員にも参加していただいたが、にぎやかに楽しくできました。5名の方がホールインワンを出して盛り上がりました。

4月から松寿会が音頭を取って月2回練習をしています。輪が広がってくれることを期待しています。教育委員会に購入していただいたトンボ(レーキ)を披露いたしました。

主事 千坂 幸雄



男子の部

優勝 中西 忍氏

準優勝 木村 卓雄氏

第三位 野村 孝行氏

女子の部

優勝 中西 栄子氏

準優勝 濱野 尚子氏

第三位 永井 依織氏

## ◎巡回ニュースポーツ教室

6月19日(水)

午後7時30分～午後9時00分

会場：はまの子体育館  
参加者数：17名(スポーツ推進員を含む)



由良地区のバレーボール大会がビーチボールバレーになったこともあり、今回はビーチボールバレーを行いました。(ユニカール等も準備していただけていましたが、参加者数等の関係でできませんでした。)

スポーツ推進委員4名、教育委員会1名の指導によりゲームが進んでいく中で皆さん上手になり楽しくゲームができました。  
今までビーチボールバレー、

ユニカール、ファミリィバドミントン等を行ってきました。これらのサークルができないでしょうか。

由良地区の皆さんが1週間に1回はスポーツをするような状態になればと思います。

## ◎バレーボール大会

7月14日(日)午前8時30分

会場：はまの子体育館

参加人数：男子35名、女子24名 計59名

今回初めてビーチボールバレーを行いました。各部男女混合でA・B2チームづくり、AリーグとBリーグの1位が決勝戦を行いました。



〈結果〉  
 優勝 第二部Bチーム  
 準優勝 第二部Aチーム  
 初めてビーチボールバレーを行いました。来年のバレーボール大会もビーチボールバレーの予定です。

◎ソフトボール大会

8月11日(日)

午前8時15分～午後〇時三十分

会場：はまの子グラウンド  
 参加人数：男子45名、女子2名と家族等の応援者

暑い日でしたが、ベンチが木陰でしたので助かりました。来年は開始時間を早めることを検討したい。

二部が選手不足でオープン参加になりました。おそらく初めてのことだと思えます。来年の開催は8月16日になりそうです。

前評判では一部が強くて他地区は太刀打ちできないと思われましたが、第一試合の一部対三部と優勝決定戦の一部対四部は最後までどちらが勝つかわからない白熱した試

合になりました。

【結果】

優勝 一部(脇) 3年連続  
 準優勝 四部(港・下石浦・上石浦)  
 第三位 三部(浜野路)  
 第四位 二部(宮本)



◎盆踊り大会

8月18日(日)

午後7時～午後8時00分

会場：松原寺

【参加者】  
 えいへいや踊り保存会21名  
 保存会以外の大人3名  
 小学生5名

「由良小唄」と「えいへいや踊り」を行いました。

午前8時から櫓の組み立て作業を文化部で行いました。午後5時15分から提灯と紅白幕の設置と放送機材の準備を

しました。

午後7時から盆踊りを開始子どもたちが輪の中に入るのを躊躇していたので参加を促すことで踊ることができました。本来、盆踊りは年に一度この世に戻ってくる精霊を迎え、また送るための風習に発したもので大人が夜を徹して踊っていました。

公民館は、えいへいや踊り保存会を後援し、存続を守っています。一般の方の参加がほとんどなく、地区民の行事になっていないのが現状です。えいへいや踊り保存会はメンバーが高齢化し後継者不足になっています。何とかならないでしょうか。



◎由良地区運動会

9月22日(日)に開催を予定していましたが悪天候のため、中止になりました。

今まで準備に携わっていた皆さまは公民館役員の皆様、自治会の皆様には大変お世話になりました。お礼申し上げます。

由良地区運動会は隔年開催になっていますが、今年度が中止となりましたので来年度開催も有ではないでしょうか。来年の4月から新役員の下で考えていただいたく思います。

◎健康広場ウォーキング

○7月のウォーキング

7月9日(火)

地区内ウォーキングを予定していましたが、雨が降る天候で参加者がいませんでしたので中止にしました。

○8月のウォーキング

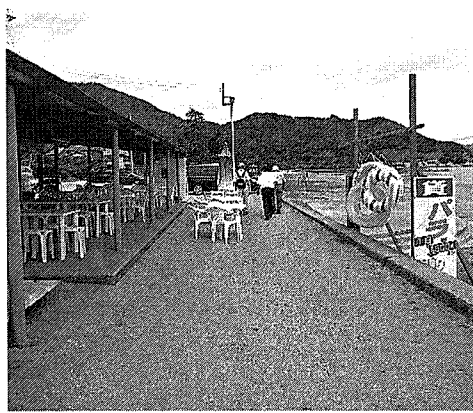
8月6日(火)

午前9時～午前10時10分  
 由良地区内(由良浜コース+奈具神社)

参加者数：4名

天候曇り、本日は九州地方に台風が上陸している関係で

○9月のウォーキング  
 9月10日(火)  
 午前9時〜午前10時  
 由良地区内(山小屋コース)



曇り空となり、風はありませんでしたが、この時期としては歩きやすい天候でした。また、広島へ原爆が投下された日でもあり、黙とうをしました。  
 ラジオ体操をしてから出発、浜では浜茶屋が開いていて海水浴客が楽しんでいました。途中で奈具神社に寄り、鯉を見学して公民館に戻りました。  
 歩行距離：3.4 km  
 歩数：4489歩

◎宮津市民野球大会

今年も由良クラブが参加しました。3度目でついに決勝戦に進出できました。決勝戦では上宮津と対戦し、5対0で負けました。昨年も準決勝で上宮津と対戦して負けています。是非、来年も出場して上宮津にリベンジを、そして優勝を狙ってください。  
 若い人たちが元気を出せば地区が活性化していきます。期待しています。

参加者数：4名  
 天候晴れ、朝から強い日差しでした。歩いていると風は秋を感じ、気持ちよく感じられました。  
 地区公民館から家門へ、そして由良ヶ嶽登山口の山小屋まで歩き、グラウンド横道から地区公民館に帰ってきました。  
 登山証明書の番号は344  
 になっていました。  
 歩行距離：3.1 km  
 歩数：4039歩

令和元年度 由良地区運動会競技種目

令和元年9月22日

NO.	個人・団体	種目	出場区分	各部人員	回数
①	小中合同	バラエティーリレー	小学生・中学生全員		1
②	個人	マラソン	男子の部(中学生以上)	出場者募集	1
			女子の部(中学生以上)		
3	団体	リム転がしリレー	男子高校生以上49歳以下の部	男4	3
			男子50歳以上の部	男4	
			女子高校生以上の部	女4	
4	団体	神輿リレー	20歳以上59歳以下	男女各8	1
5	団体	玉入れ	60歳以上の部	男女各8	3
			男子59歳以下の部	男10	
			女子59歳以下の部	女10	
6	団体	2人3脚リレー	20歳以上	男女各4	1
⑦		親子かけっこ	5歳以下(由良以外の幼児も可)		6
8	団体	綱引き(予選)	高校生以上	男18	2
⑨		小中合同リレー	小学生・中学生全員		1
⑩		由良小町とえいへいや踊り	踊り保存会+各地区+小学生・中学生		
昼食(休憩)					

NO.	個人・団体	種目	出場区分	各部人員	回数
11	団体	綱引き(優勝決定戦・3位決定戦)	中学生以上	男18	2
12	団体	ボール送り	高校生以上49歳以下の部	女8	2
			50歳以上の部	女8	
⑬	団体	ボールウォークリレー	65歳以上	8	1
14	団体	ナイスキャッチ	20歳代~30歳代・40歳代・50歳代	各年代男女各2	1
15	団体	仲良しボール引き	60歳以上	男女各6	1
16	団体	四部対抗リレー	中学生	1	1
			高校生~22歳	男女各1	
			23歳~29歳	男女各1	
			30歳~39歳	男女各1	
			40歳~49歳	男女各1	
			50歳~59歳	男1	
			60歳以上	男1	

# 由良リングカフェ

特別養護老人ホーム「安寿の里」

施設長 井上 貢

## 【由良リングカフェについて】

現在、認知症に関しては国を挙げて様々な施策が進められています。その背景には、認知症高齢者の増加とその社会的負担増加があります。厚生労働省の2012年の研究調査によると、65歳以上高齢者の約7人に1人が認知症高齢者であるとの調査結果が出ており、2025年には5人に1人になると予測されています。社会全体の課題として認知症介護に取り組む中では、ご本人への介護、支援はもちろんながら、その生活を支える介護者、ご家族への支援も、同様に取り組んでいく必要のある重要なポイントとされています。

認知症カフェはこうした認知

症介護に関わる方々が、気軽に集まり、なごやかな雰囲気の中で交流を持ち、お互いの悩みや、介護の大変さを共有したり、専門家による助言やアドバイスを受けることのできる場として、政府の掲げる新オレンジプラン（認知症施策総合推進戦略）の一環として2012年頃より全国に広がりを見せはじめ、現在では全国の各市町村、約600ヶ所以上で開催されています。

一般的に「認知症カフェ」「オレンジカフェ」と呼ばれたりしますが、その呼び方は様々で、開催地域等によって特色あるネーミングとなっています。由良リングカフェも由良地区の「由良」と、様々な人たちが輪

となり、つながる事をイメージした「リング」を合わせて、多くの方が自然と集まる場になればという思いをのせて誕生しました。

## 【由良リングカフェの内容】

由良リングカフェは毎月第2、第4火曜日の13時30分～15時30分に安寿足湯千軒長者の館で開催しています（参加費500円）。プログラムとして



は転倒予防に効果のあるオリジナル体操「ゆらりん体操」をはじめ、簡単なクイズ等の「脳トレ」で体と頭を柔軟にしたあ

と、参加された皆さんと交流しながら、認知症予防のための活力ある生活を目指し、日々の生活に活動性を持ってもらうための作業的レクリエーション等（小物作り、折り紙、大人の塗り絵、お菓子作り、百人一首等々）を行います。後半は美味しいケーキでティータイムを持ちながら、地域の事や様々な話題に花を咲かせています。

毎回、ボランティアの方を含め10名程度のご参加を頂き、わいわいにぎやかに楽しいひと時を過ごしていますが、認知症カフェだから何か特別に認知症に関する取り組みをしている、しなくてはいけないという訳ではありません。「みなさんが気軽に立ち寄って、つながり、交流を持ち、楽しい時間を過ごす。」という事が一番の認知症予防なので、どなたでも気軽に参加頂ける内容となっています。開催日には目印に大きな桃色の暖簾

が掛かっているのです、興味のある方にはぜひ一度由良リングカフェをのぞいて頂ければと思います。

もちろんスタッフは安寿の里職員を中心とした介護の専門家なので、認知症に限らず、日々の在宅介護や施設選び等で知りたいことがあれば、いつでもお気軽にご相談下さい。

### 「これからの由良リングカフェ」

由良リングカフェでは、これからも地域のみなさんが気軽に参加できるメニューを用意して、先にご案内した日程で定期開催してまいります。ティータイムだけ、活動部分だけの参加でも結構です。地域のみなさんに気軽にお立ち寄り頂き、お顔を見せて頂けるだけでも笑顔が生まれます。多くの方とつながりながら、これからも地域と歩みを共にしていきたいと思えますので、今後とも何卒よろしくお願いたします。

## 奉納太鼓

### 主事記

10月13日、由良地区の例祭において由良神社で奉納太鼓が予定されていましたが、台風19号の影響で中止になり、宮本自治会、浜野路自治会、港自治会の各公民館で奉納太鼓を実施しました。

奉納太鼓は、神楽踊りと船頭踊りからなり、この二つの踊り太鼓の前に練り込み太鼓が笛の調べに合わせて打たれます。又、二つの踊り太鼓は大勢の氏子の皆様が歌う歌と一緒に打たれます。次に歌詞を紹介します。(元々は16曲、公民館だより、161号、由良の笹ばやしを参照)

### 神楽踊り 浜野路自治会

イヤー 神楽踊りを一踊り  
(前の一行繰り返し)  
ヤ こなたへ参りて表がかりを

ながむれば

(前の二行繰り返し)  
ヤ 障子の下の見事さや  
ヤア 鏡天井はやら見事  
(前の一行繰り返し)

イヤー 神楽踊りを一踊り  
ヤ こなたへ参りてさあて  
押板詠むれば

(前の二行繰り返し)  
ヤ 具足に兜を御取揃えて  
つつみ太鼓は絶えせん  
ヤア つつみ太鼓はいつも絶えせん  
ヤア いつも絶えせん

イヤー 神楽踊りを一踊り  
ヤア これのお若衆おたしなみ  
(前の二行繰り返し)  
ヤア 笛に上手と打見えて  
かんこ笛に神楽笛  
イヤー 狸々の乱れおば  
ヤ 暫しがおどりでお待ち合おう  
(前の二行繰り返し)

(踊り上げ)  
イヤー 神楽踊りを一踊り  
ヤ かぶき山かげ巢をかけ

(前の一行繰り返し)  
ヤアー 国々のたかが巢をくむ  
ヤアー たかが巢をくむ

### 船頭踊り 浜野路自治会

ヤア 船頭踊りを一踊り  
(前の一行繰り返し)  
イヨオ こなた近江の堅田の船頭  
(前の一行繰り返し)

乗せて給われ船頭殿船頭踊りは  
おもしろい  
イヨオ こなた乗せるは安けれど  
(前の一行繰り返し)  
嵐強けりや船が出ぬ船頭踊りは  
おもしろい

イヨオ あれに見えるは竹生島  
(前の一行繰り返し)  
竹生島から雲が出る船頭急いで  
船を出せ船頭踊りはおもしろい  
イヨオ あれに見えるはかがみ山  
(前の一行繰り返し)  
かがみ山から雲が出る船頭急いで  
船を出せ船頭踊りを一踊り  
ヤ お庭に名残りはおしけれど  
(前の一行繰り返し)  
ヤ 明年参るや又参ろう  
(前の一行繰り返し)

# 年に一度の交流

ソフトボール大会優勝地区 長尾明廣

「お盆にソフトボール大会があるから出場してー」このお誘いを頂くようになり、早10年私にとって四部対抗ソフトボール大会はお盆の恒例行事となっております。

最近では、「誘われる側」から「誘う側」へと私の立場も変わり、年々このソフトボール大会への想いが強くなっております。

脇地区は、野球経験者が多く、以前はお盆になれば、20歳前後の学生をはじめとした若者がたくさん帰省し、その若者を中心とした出場メンバーが十分におりましたが、昨今ではその若者が30代、40代となり、家庭を持ち、体力的にも、そして時間的な余裕も少なくなっ



ているかと思えます。

今年は今まで出場してくれていた方が急に出場できなくなったり、怪我で出場できない方が多くいたこともあり、今後につきましてもソフトボール大会への出場メンバー集めは、四部共

通の課題となってくるのではないのでしょうか？

由良地区の人口減少、高齢化、若者の流出、これらの現状をひしひしと感じるソフトボール大会に今後ならないことをご祈念申し上げます。ソフトボール大会優勝地区感想とさせていただきます。ありがとうございます。



## 平成30年度 宮津市人権標語優秀作品

宮津市内小中学校の児童・生徒対象の人権標語優秀賞受賞作品です。

広げないいじめの輪 みんなで止めよう その涙 (中学1年生)

個性を認め 個性を生かす その個性はみんなを照らす (中学2年生)

気付いてる？ そばに頼れる人がいるんだよ (中学3年生)

# バレーボール大会に参加して

吉元 誠 司

日頃は、由良地区公民館行事にご協力をいただき、誠にありがとうございます。

今年7月、恒例の四部対抗バレーボール大会が開催されました。

地区の皆様方と一緒に、楽しいひと時を過ごすことができました。

昨年は、大雨で中止になりましたが、令和最初の今大会は、新たな取り組みとして「ビーチボールバレー」が行われました。ビーチボールバレーは、文字通り、ビーチボールを使って行うバレーボールです。

簡単にルールを説明しますと、まず、第1に各地区で2チームを編成するのはこれまでどおりですが、従来の男女別の試合を改め、今回は、男女混成チーム(1チーム5名)になったこと

とが大きな特徴です。

各世代の男女が一緒になって試合を行う初めての試みでしたが、宮本地区では、高校生から60代に近い方々まで、幅広い参加がありました。

第2に従来のバレーボールコートに比べ、小さなバドミントンコートを使用し、ネットも180センチと低く設定したことです。

本格的なバレーボールに親しんでいる方には、少し物足りない部分もあるかもしれませんが、不規則な軌道で飛んでくるビーチボールをうまく打ち返すには、ちょうどいいサイズでした。

第3にボールは必ず3回で相手のコートに返すのですが、同じ人が2回ボールに触ることができないことです。

試合になるとバレーボール経験者に遠慮して、なかなかボールに触れない方もおられます。相手コートに返すまで、同じ人が2回ボールに触れないことで、必然的に多くの方が協力しないといけない状況が生まれま

した。第4はビーチボールを使用することで、安全性がさらに向上したことと、試合の効率化が進んだことです。

試合前の入念な準備体操が必要なことや言うまでもありませんが、ビーチボールになったことでけがのリスクが少なくなりました。

大会中にけがが発生すると、けがをした本人も大変ですので、今回、大きなけがもなく、大会ができたことは大変良かったと思います。

また、3セットマッチ、11ポイント先取の試合は、待ち時間も少なく、大会の効率化につながりました。

従来はお昼をはさんで試合が行われていた関係で裏方は弁当の注文など、いろいろなことに気を揉んでおられたのではないかと推察いたします。

賛否はあるかと思いますが、概ね昼ころに試合を終えるのも一考かと思えます。

さて、地区公民館が主催する各種大会は、年々参加者の減少が続く中、多くの方が参加しやすいように適宜検討を重ねながら行っているのが実情です。

最近では、参加者の資格を由良地区在住者に限らず、由良地区の出身で他の地域にお住まいの方、その配偶者や子供さんまで広げていきます。

大変良いことだと思います。大会ですので勝ち負けはついてしまいますが、それにこだわらず、今後も各地区相互の親睦と交流の場になっていけば良いと思います。

今後とも、由良地区公民館行事への積極的な参加とご支援、ご協力をよろしく願います。



# 地域の暮らしを守るために

由良駐在所 森井善徳

この4月から由良駐在所に赴任し、ようやく半年が経ちました。その間、由良管内では大きな事件や交通事故の発生はなく、これも地域の皆さんの協力のおかげであると感謝しております。

私は警察官を拝命して30年以上になりますが、駐在所で勤務するのは初めてです。警察の目的や使命は言うまでも無く、地域の皆さんの暮らしを守ることでありますが、私は駐在所勤務員として皆さんと一緒に生活しながら地域に溶け込み、地域の安全で安心な生活を守るために頑張っていきたいと思っております。

しかしながら、地域の安全で安心な暮らしは、駐在所や警察の活動だけでは守ることはできません。行政機関や学校、地域の自治会や消防団、それに暮らしておられる皆さんの協力があつて、初めて守れるものだと考えています。そこで地域の皆さんにも、安全で安心な暮らしを守るために気を付けていただきたいことがあります。一つ目は、交通事故防止についてです。宮津警察署管内では、今年9月末までに怪我のある人身事故が25件発生しており、そのうち1件は死亡事故となつています。また、怪我のない物件事故も合計で799件発生しており、このような交通事故を防止するために、運転手の方には、まず、第一に「交

通ルールを守ること」をお願いいたします。交通規則を守っていれば、ほとんどの交通事故は発生いたしませんし、たとえ事故が起きたにしても大きな事故には繋がらないと思います。また、高齢で運転の不安のある方には、「運転免許証の自主返納」を一度考えていただきたいと思います。車が無ければ生活が不便になることはよくわかっていきますが、大きな事故を起こせば、それ以上の悲劇が待っています。少しでも免許証の返納を考えている方がおられれば、駐在所にご連絡ください。次に気を付けていただきたい二つ目ですが、振り込め詐欺などの被害防止です。京都府下では今年に入り、8月までに振り込め詐欺などの特殊詐欺の被害が112件発生しており、被害の総額も1億7千万円を超えています。被害者の80パーセント以上は65歳以上の高齢者であり、高齢者の比率が高い由良では、特殊詐欺の被害に遭う危険性が高いと思われます。そこで特殊詐欺の被害防止のために

- 知らない人からの電話にはでない
  - 在宅時も留守番電話にしておく
  - 不審な電話やメール、葉書などがきたら家族や駐在所に相談
- というような特殊詐欺防止策を取っていただくようお願いいたします。
- 終わりに、皆さんが安心して暮らしていけるように微力ながら頑張っていきたいと思っております。今後どうか、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



# 私の平成

## 飯澤 登志朗

当時の小渕官房長官が「平成」と記入された色紙を掲げ、新しい元号は標記のとおり決定したと発表された。新しいスタートは印象深く記憶に残る。

そして平成31年間、公私に亘り色々なことがあった。

平成7年6月、43年間勤めてきた仕事を退職した。まだ停年まで4年程期間はあったが退職について寂しいとか悲しいといった感覚は全くなく、むしろ満足感に浸っていたように思う。

公民館にお世話になったのが平成10年4月、当時の公民館だよりを見ると宮津市地区対抗駅伝大会や、由良ヶ嶽登山に関係する投稿が目に入る。

当時、駅伝に出場した小学生

も成人し社会人として活躍しているだろう。また登山に参加した舞鶴市の方からは、住民の皆様「和」を大切に行っている公民館活動の素晴らしいさに敬意を、と書かれている。

公民館活動に携わり何と言っても忘れられないのは由良地区公民館が全国優良公民館表彰を受賞したことである。文部科学大臣表彰で北海道から沖繩まで54公民館が受賞した。先人の方々が努力された結果であるが、平成14年10月東京まで出張し、式典終了後皇居に於いて天皇、皇后両陛下に拝謁してお言葉を賜ったことである。

また、歴史に全く興味がなく関心も持たない自分を変えてくれたことがあった。公民館だよ

りの校正をお願いしていたある時、公民館長に由良の歴史を少しは知っておくよう勧められ参加した。

楽しさが増すと共に自分の無

知を知らされた平成である。

今、全国で高齢化が問題となり、当由良地区でも人口減、高齢化が急速に進んでいる。

昭和7年の郷土調査（由良尋常小学校）によると昭和5年人口は1948人出生87人とある。現在は人口約1000人余り、高齢者は500人を超えており少子高齢化社会へまい進中である。

老老介護・8050・独居老人・人生100歳・老後資金2000万円・話題は尽きない自分がその立場に立ち現実の問題と認識している。

自分の事で恐縮だが、私も妻に先立たれ独居老人の日々を過ごしているが末永く健康で楽しい老後を描いていた。元プロ野

球監督、野村克也氏がテレビ取材で「夫婦とは何もしてくれなくても良い、一緒に居てくれたら良い」と語られていた。同じ立場にあり改めて実感しているが、平成時代嬉しいこともたくさんあったし、地域の方々に親切にしていたただき感謝する毎日である。

# 由良が光り輝いていた時代 (10)

由良の歴史をさぐる会 加藤 正一

## 「寺社その他編 No.9」

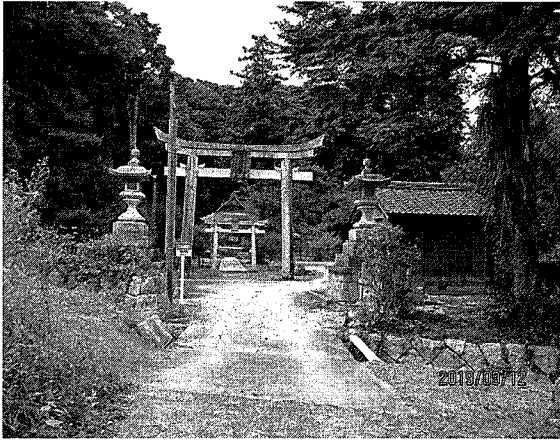
由良最古の神社

### 「式内社奈具神社」

御祭神 豊宇賀能売命

(とよづかのみこと)

本御祭神は伊勢神宮の外宮に祀られている豊受大御神と同じと云われている。



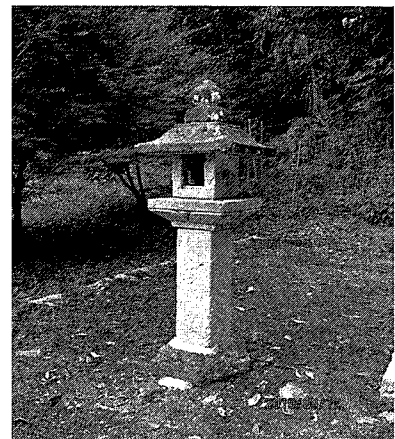
創始年代は不詳ですが、後醍醐天皇の御代の延喜式神名帳 延長五年(九二七)に記載された神社を式内社と云い、丹後国六五座の内、加佐郡は十一座、その内の一座である。

建造物については元禄四年(一六九一)八月に前身の本殿の造営があり、安永五年(一七七六)に修理が行われた記録がある。現在の本殿は棟札から寛政六年(一七九四)の再建(宮津市史神社編)

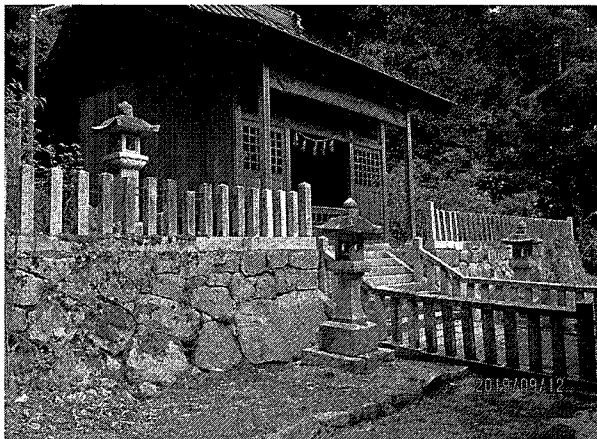
往昔、奈具神社は奈具峠(別名長尾峠)にあり、今の脇村は奈具村と言い、峠に散在居住していましたが度々の大洪水のため、家屋が流失し奈具村の地形も変わり同時に奈具神社の宝物、古文書とも流失し現在地に遷座したと云われています。

境内社「大川社」(秋葉神社合祀)の前に一基ある由良で産出しないう石塔、越前青石製の由良最古の宝永年代の石燈籠

石製であるが火山性凝灰岩で柔らかいため劣化が進みいずれ崩れる恐れがある。出来れば永久保存が望ましい。



本殿下の一对の石燈籠。延享五年(一七四四)、製





本殿境内にある燈籠一基も同じ年代。そばにある狛犬年代は不明であるが、稚拙な顔、頭、などから同じ年代と思われる。



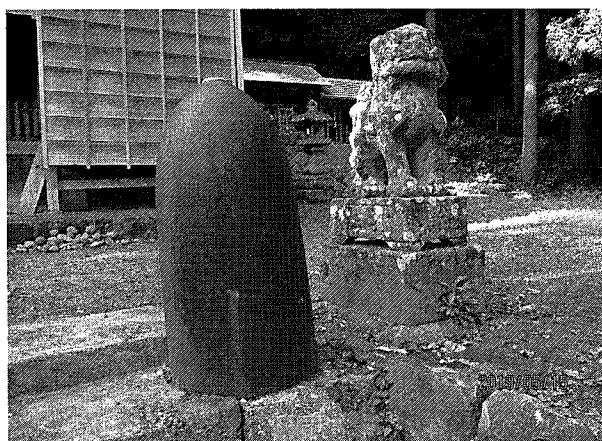
残念なのは本殿境内の燈籠、狛犬は各一対であったが、平成三年七月二十四日の強風によりタモの木が折れ本殿が倒壊した際、狛犬、燈籠の各一基が破損した。その残骸が害獣除けのフェンス外側に置かれた。壊れた狛犬はうらやましげな顔をして天を仰いでいる。  
願わくはフェンス内に!!



中鳥居の傍に石の一対台がある。



由良の北前船舶主磯田家（四郎左衛門、平兵衛）が文久二年（一八六四）に奉納した一対の石燈籠、拝殿石段下の参道脇にある。



飯澤氏によれば砲弾が置いてあったとの事である。台の上の丸い台座の径が高浜市の上瀬の「山神社」石段上両側に置かれている砲弾が同じ大きさの径であり、このようなものが置かれていたようである。



不思議

一、式内社に記載されているにも拘らず江戸時代の古文書には、熊野神社(由良神社の前身)、無水月神社、住吉神社等等は記載された古文書はあるが式内社にも関わらず奈具神社が記載されたものが見つかからない。

二、宮津市史(通史編上)には由良神社の項にこの神社は江戸時代には三寶荒神と呼ばれていたとあり、(関係ないがこの神社付近の山麓から弥生時代の銅鐸二口が出土したと伝えられているが、その所在を含め詳細は不明である)丹後舊語集享保貳拾年(一七三五)には氏神とあり、地区の主なる神社として書かれている。これに係る事として、

明治二己巳年  
奈具神社  
三寶大荒神  
云傳書上控  
三月日  
由良脇村

(磯田家文書・京都府立郷土資料館蔵)

奈具神社・三寶大荒神言伝書上控  
(読み下し文)

恐れながら申し上げ奉る口上覚  
一今般式内の神社御改に付き仰せ

豪らせらる。則ち、式内の内当村氏神奈具神社三寶大荒神の由緒取り調べ申し出づべく様仰せ下さる。則ち、村方取り調べ候えども何分時罷りなきの儀は、御承知の通り往古より洪水・山抜け等夥しくこれ有り候趣、その上焼失を数度の土地柄にて由緒書付等相分り申さず候。何分往古の儀、流失焼失にも相成り糺さるるも一向に相分り申さず候。さりながら往古より古人の言い伝えには、お昔は奈具村と申して奈具峠の内にも少少づつ□平地に五軒又七軒づつ住家いたし由、幾年の頃にや、大山抜けにて大雲川附け替り、只今の

村地へ出来候由にて、今の里へ追々に住家替り仕り候由、その節迄は奈具村と申して由良村の内にては御座なく候由、その砌に由良脇村と号し由良村に相成り候趣申し伝え候。只今にては長尾峠と書きし候事は幾年の頃よりや、文字間違いに相成り候様、申し伝え候。則ち只今にても音には奈具磯・奈具山・奈具峠と申し唱え候。全て是等の処は文字間違いと申し伝え候。往古は奈具峠・奈具村・奈具神社三寶大荒神と申す式内の神社と申し伝え候。荒々申し上げ奉り候。猶、御尋の儀も御座候間、口上にて申し上げ候。猶、御尋の儀も御座候は種々言い伝え御座候間、口上にて申し上げ候。

(舞鶴市郷土資料館学芸員 小室智子氏)  
結果言い伝えであり良く解らない。

明治二己巳年

三月日

由良脇村庄屋

磯田利喜蔵

同年寄 新四郎

同村惣代

磯田平兵衛

高田出雲正様

玖津見淡路正様

脇の一部の家には由良草創七家という言い伝えがある。その七軒(一軒は不明)  
ヒガシ (東)、  
シヨウツ(小田原)  
チヨウスケ(加藤)、  
ギザエモン(北野)、  
サザエモン(左近)  
ニシエモン(西の上)  
〇〇〇〇(不明)  
奈具神社・三寶大荒神言伝書上控に書かれている。奈具峠の内にも少少づつ□平地に五軒又七軒づつ住家いたし由、又大山抜けにて大雲川附け替り、只今の村地へ出来候由にて、今の里へ追々に住家替り仕り候由とあり最初に現在地に移り住んだ七軒がそれに当たると考えられる。



もう一つの奈具神社  
京丹後市弥栄町船木奈具一七三  
御祭神 豊宇賀能売命  
(とようかのめのみこと)

神社前の京丹後市教育委員会の説明板には

「丹後國風土記」と奈具神社

奈良時代に編さんされた「丹後國風土記」は、後の時代になつてほかの書物に引用された文章(逸文)が伝わっています。その一つに「奈具社」があります。その内容は次の通りです。

丹波の郡比治の里の比治山の頂にある眞奈井に天女八人が降り立ち水浴をしました。その姿を見た和奈佐の老夫婦は、天女の衣装をひとつ隠しました。一人の天女は衣装がないため天に上がれなくなり、和奈佐の子となりました。そこで天女は、万病に効く善い酒を作り、そのおかげで老夫婦は豊かになりました。

しかし豊かになった老夫婦は、天女に対してわが子ではないから早く出て行けと言ひ、天女を追い出してしまいました。

天の原よりさけみれば霞立ち

家路まで行って行方しらずも

という和歌を一首詠みました。

天女は、荒塩(京丹後市峰山町久次)から丹波の里哭木村(京丹後市峰山町内記)を経て、竹野郡船木里奈具の村(京丹後市弥栄町船木)へと移り、一なくしく成りぬ、(心が安らかなになりました)とこの地にとどまりました。この羽衣天女こそ奈具社(奈具神社)に祀られた豊宇賀能売命とされています。

引用元は失念してしまつたが次のように書かれていた。奈具社は現在船木奈具に鎮座するが、その旧知は舟木里奈具村で、その奈具村は嘉吉三年(一四四三)の大洪水によつて全村流失したと伝えられ、遺跡地は未詳とされている。祭神は溝谷神社に移され天保三年(一八三二)式内号、靈石の返還を求め明治六年(一八七三)返還され現在地に再建された。

仮説「由良・奈具神社物語」

由良の奈具神社の由緒は不明であるが前述の京丹後市舟木の奈

具社(神社)と名前、祭神や経歴がほとんどよく似ている。往古延喜式記載以前より交流があったのだろうか、それとも船木の住民が脇村に移住し、元いた所舟木の名前、奈具峠、奈具村と呼び、奈具神社を祀った。その為よく似たものになっているのでは。ではこの時代どのようにしてこの地に神社があることが中央(都)知られるようになり式内社なつたのだろうか? また平安時代に式内社に指定された事を奈具峠の奈具村の住人は知っていたかどうか、知っていたとしても時を経るごとに薄れていき、前述の「奈具神社・三寶大荒神言伝書上控」にあるように、大山抜け(山崩れ)にて大雲川(現由良川)附け替り、只今の村地(現在地)へ住民が追々に奈具峠より、多くが移り住み始め、時の仏教を讃える現奈具神社地に三寶大荒神社を祭っていた。奈具神社は旧お薬師さんと同じように住民が移り住んだ後も奈具峠に祀られたま

までいたが洪水・山抜けで壊れたか又は奈具峠まで事あるごとに参りに行くのが難渋するようになり奈具峠より既に現在地に祀られていた三寶大荒神社に合祀した。当時はあくまでも三寶大荒神社が主体であった。故に江戸時代の古文書には三寶大荒神が氏神として記載。ところが明治新政府になり廃仏毀釈で仏法僧を祀った三寶大荒神社がはばかられ、特に式内社が重視され明治二年の「奈具神社・三寶大荒神言伝書上控」にあるように明治新政府の関係部門から式内の神社御改があり改めて合祀した奈具神社の価値を認識し、新政府に忖度した結果、逆に三寶大荒神は後ろに下げ奈具神社を前に出した。時間とともに三寶大荒神の影が薄くなり、その為現在は影も形も解らない。それでない祭神があまりにも違い(豊宇賀能売命と仏法僧)奈具神社を三寶大荒神と同じと呼ぶのは違和感がある。当時の人も祭神の違いくらいは存じてい

たと思う。もしかすると地区民が奈具神社を参拝する時、北側境内隅の石を参拝する。現在は金毘羅神社や岩穴稻荷をここから参拝する為とか言われているが、これが三寶大荒神のなごりかも。子供の時ここでは手を叩かないと聞いたような。



「災害は忘れたときに来て」近年由良に於いて大きな災害は聞くことがないが、過去度々起

きている。前述の「奈具神社・三寶大荒神言伝書上控」に往古より洪水・山抜け等夥しくこれ有り候、とある。

一例として「脇流れの記事」

(中西六右衛門家文書)

(府立郷土資料館蔵)

維時文化十一年(一八一四)戌年七月二十七日夜由良分脇邑洪水その由を記す

中略

忽ち天裂け地崩れ石浦邑境川より森ヶ鼻、脇邑岩穴明神迄田畑尽く砂場となる。(現在山裾の由良古道に沿って畑地になっている所の事を指すと思われる。)

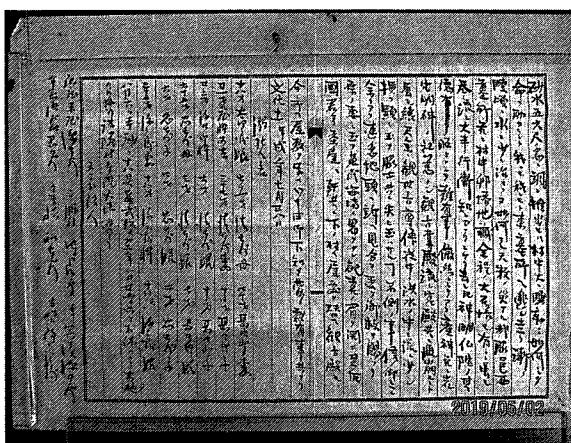
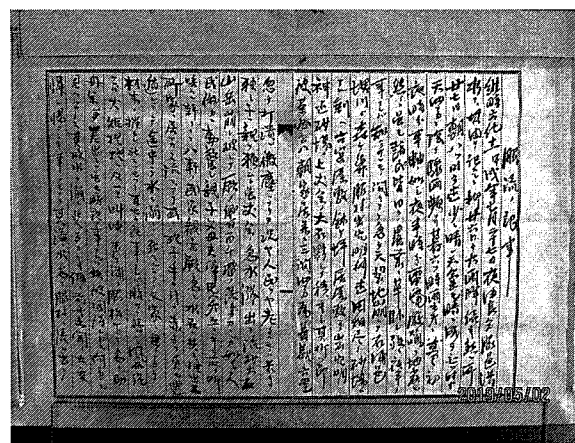
中略

脇、松下より助舟あまた差し出す誰も暗夜の事なればここかしこ聞き得れども何方とも見え分たずそれ故水に溺れ死人多かりき誠に前代未聞の大変憐れ痛ましき事である。

後略

三、四年前宮川が土砂に埋まり線路近くまで水が出た。線路が無ければ脇地区は相応の被害が

出たと思われる。脇流れの小型版である。防災準備必要。



# 短歌

柘本 清

ドンヒヤララ祭り太鼓賑やかに

薫る木犀我が家に満ちぬ

ラグビーボールロケットのごとくつき進み

つかむや肉弾飛び込むゴール

青い空秋の日差しを独り占め

小春日和の涙の子グランド

夕暮れの茜の色に口ずさむ

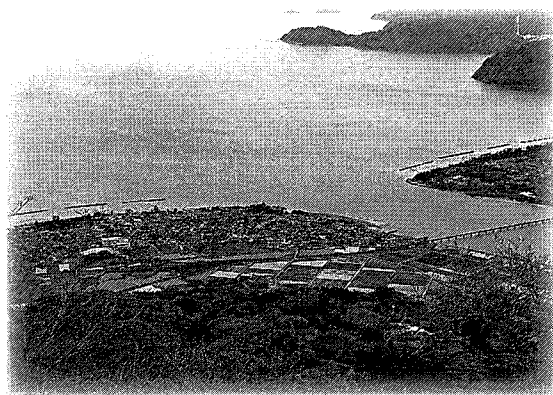
山の端見つつ夕焼け小焼け

来年の大きな玉葱夢見つつ

秋の日差しに植える手冷たし

# 編集後記

鉄橋を渡る汽車の音が遠くに聞こえ、月夜には対岸まで渡れそうな光の道が川面にきらめく。オードリー・ヘプバーンの歌「ムーン・リバー」が聞こえてきそうだ。ここは、日本の原風景がある我が妻の故郷「由良」移り住んで約2年、何か少しでも地域のお役に立て



ればと、この4月から由良地区公民館文化部員のお役をいただきました。

活動内容を知ろうと読んで今年3月の「公民館だより」に、昨年の文化祭で初めてオカリナ演奏会が催されたとありました。

私は学生時代にバンド活動をしていたこともあり、「音楽を通じて地域の活性化ができれば」と思っていました。この由良にもピアノやギターなどの楽器演奏をはじめ、音楽好きの方がたくさんいると聞いています。

楽器演奏ができる方々と演奏を学んでみたいと思う人たちとの橋渡し、文化祭等での発表会や音楽イベントの開催など、次代を担う子供や若い人たちも参加しやすい企画ができればと思います。

由良地区公民館文化部員